

《チャイルドラインデータ資料》 2023年度・第2四半期

【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

▶ 今期のテーマ「虐待／ヤングケアラー」◀

▶ 2023年7月～9月のアクセス内容と分析◀

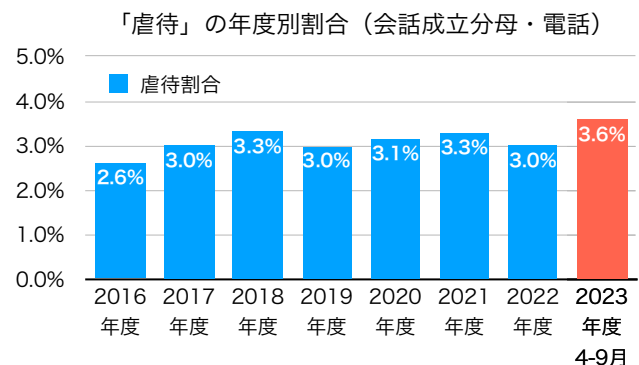
《第2四半期のテーマ「虐待／ヤングケアラー」》

今回は「虐待」と「ヤングケアラー」について調べました。虐待に関しては、チャイルドラインの「深刻な悩み」の中でも常に上位です。過去7年間の「電話」においてのデータ集計を行い、傾向をみました。データ割合は、主に「会話成立を分母としたいじめの割合」で集計しています。

《虐待》

◆「虐待」の年度別割合

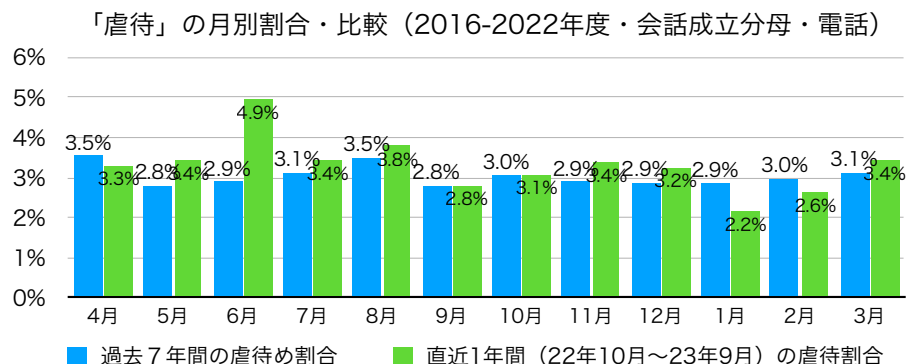
2016年から2023年までの年度別を見てみると、2016年を除き、やや上下しつつ同水準で推移しています。今年度の前半の割合が少し高いのは、2023年6月の虐待の割合が高いことが影響しています（理由は不明です）。1年通してどうなっていくか、今後注目したいところです。



◆月別傾向（全体と直近1年）

2016年度以降～現在までの通期を月別の割合でみました。

虐待に関しては多少の上下があるものの、一年通じて3%程度で推移していることが特徴です。ただ、細かく見てみると、4月・8月が、3.5%と他の月と比べて少し高くなっています。これは、4月は春休みから新学期



期にかけて、8月は夏休みの時期にあたるので、長期休みがなんらか関係しているのではないかと思います。今後の分析が必要です。直近1年に関しては2023年6月がやや突出し、1月がやや減少していますが、年度別の月別集計では増減があるので、今後の推移を見守る必要があります。

◆虐待の年齢割合

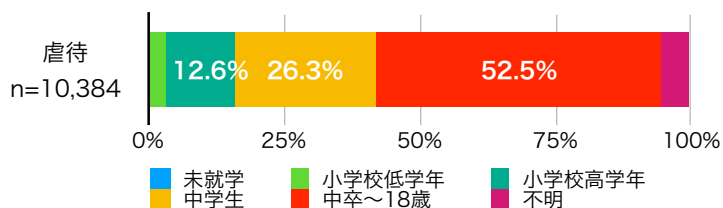
「虐待」の年齢割合を見ました。中卒～18歳が52.5%と多く、次に中学生26.3%、小学校高学年12.6%と続いています。

参考として、厚生労働省の児童相談所での対応件数を見てみますと、年齢データが公表されている2014年度（平成26年度）の年齢層では、小学生が34.5%中学生が14.1%、高校生・その他が7.9%となっており、虐待対応は、小学生の割合が一番多いとなっています。

この結果は、グラフにあるチャイルドラインデータとの違いが顕著ですが、これは、子ども自身が虐待を受けていると自認したり言語化できるかや、相談窓口へ自発的にアクセスしてきているかどうかなど、年齢の違いによって、コミュニケーション・第三者へつながるハードルが生じていることが考えられます。今後さらなる分析が必要です。

※厚生労働省の児童相談所での対応件数データ出典元「虐待を受けた子どもの年齢構成の推移（児童相談所）」：
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000122793.pdf>

「虐待」項目の年齢内訳割合
(2016-2022年度・電話)

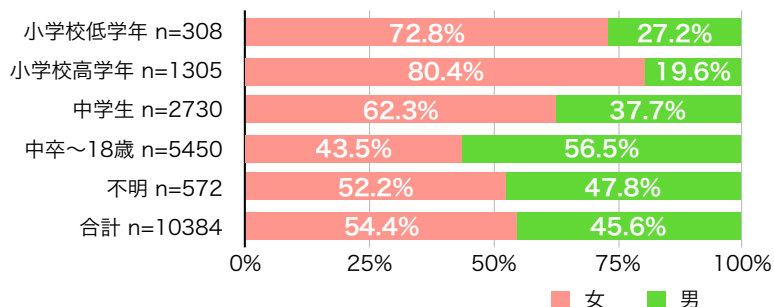


◆虐待の性別×年齢割合

性別と年齢の相関を見てみると、年齢・性別によっても違いが見られます。小学生は女性が多く、高校年齢になるにつれて男性の割合が増える傾向となっています。相談の中には一部、作話や誇張と思われるものも含まれるため判断は難しいものの、虐待の悩みを持つ男性も一定程度いる可能性があります（チャイルドラインでは、子どもの話の内容に関わらず、作話なども含めてどんな話も受け止めています）。全世代で見ると、やや女性の割合が高い傾向です。

※チャイルドラインの集計では、これまで、生物学的視点においての性別を基準にデータ集計を行ってきました（2023年度は、ここにLGBTQ+などの性的マイノリティに関する集計も開始しました）。

「虐待」項目の性別×学年別 内訳割合
(2016-2022年度・電話)



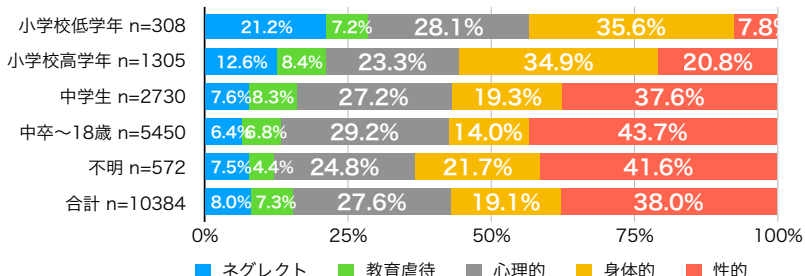
◆虐待の内容（年齢別）

虐待の内容を見てみます。

合計で多いのは「性的・心理的・身体的」の項目となっています。年齢別で見られるように「身体的」が低学年に多いのに対して、「性的」が学年が上がるにつれ増えています。一方で「心理的」はどの学年にも一定割合あることがわかります。また、小学校低学年は「ネグレクト」の割合が高いことも注目する必要があります。

「中学生」と「中卒～18歳」の「性的」割合が多いのは、前項にあげたように「作話」の電話も混在している可能性があるため、今後も詳細な分析・検討が必要です。とはいえ男性への性虐待についての議論の必要性もあることが示唆されます。

「虐待」の項目別 × 学年別 内訳割合
(2016-2022年度・電話)



◆虐待の平均通話時間（比較）

虐待についての通話時間は、全体を示す「会話成立」が18分2秒なのに比べて、「虐待」は26分37秒と大幅に長くなる傾向であることがわかりました。

これは、虐待内容の深刻度にも関係して、時間をかけて丁寧に聴く必要性があることや、子ども自身が虐待に関係する言葉を発するまで、ある程度の時間（心理的ハードル等）が必要であることなどが考えられます。

◆「気持ち」に関する傾向

虐待の「気持ち」項目内訳（単一選択）を集計しました。

上位にあるのは「つらい・苦しい」「イヤだ」「困惑・困っている」などで、虐待を受けている子どもたちの切迫度が伝わってきます。ただ「葛藤・迷い・戸惑い」「不安」「恐怖・怖い」「怒り・いらだち」など他の気持ち項目も選択されており、虐待下に置かれている子どもの状況や心境が複雑であることも伺われます。

◆関係性

虐待の「関係性」項目内訳（単一選択）を集計しました。

「実母」と「実父」の項目が上位になっており、実母が半数を占めていることがわかります。

◆まとめ

特徴として見えてくるものは、チャイルドラインにアクセスしている子どもたちは、この7年間で「虐待」は急激な増減はないこと、月別で見ても、4月8月の学校の休み期間にかかる月にやや増加しているものの、一年通じて割合は大きく変化していないことなどがわかりました。

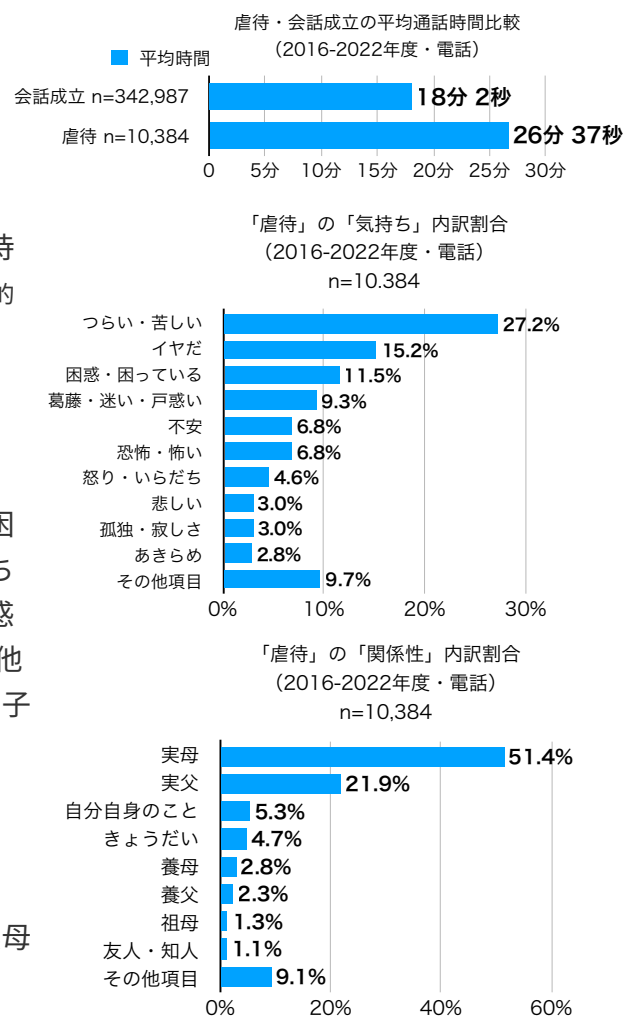
年齢の割合は「中卒～18歳」が多く、性別は「女性」がやや多い傾向でしたが、細かくみると小学校の方が女性が多く「中学・中卒～18歳」については「男性」が多いなど、変化がありました。

また「虐待の内容」を見てみると、全体として多いのは「性的・心理的・身体的」の項目ですが、「身体的」が低学年で、「性的」が上の学年で多い傾向となりました。一方で「心理的」はどの学年も一定割合いることがわかりました。ただ、小学校低学年の「ネグレクト」割合が高いことは注目する必要があるでしょう。

通話の平均時間も、会話成立全体の平均時間よりも「8分30秒」以上長く、時間がかかるテーマであることがわかります。

「気持ち」は「つらい・苦しい」や「イヤだ」などが上位で、辛い状況に置かれている・切迫度が感じられます。「関係性」では「実母」との関係についてが半数を占めることがわかりました。

虐待に関する課題は、私たちもまた社会的にも大変深刻で重要な課題です。引き続き、データや現場から感じられる情報について集計・分析を行いながら、今後も発信を続けます。



《ヤングケアラー》

◆特徴とまとめ

2023年4月から、データベース上において「ヤングケアラー」について情報を把握できるように記録することとしました。ここでは、参考値として2021年以降の「ヤングケアラー」についての一部データをご紹介します。（表参照）

2021年度から23年度9月までのヤングケアラーに関する件数は、80件寄せられました。

そのうち、学年については中卒～18歳が一番多く51件、性別は女性が多く53件となっています。

動機については「話を聴いてほしい」が一番多く65件、関係性は「自分自身のこと」「実母」「きょうだい」の順に多くなっています。気持ちは「つらい・苦しい」「葛藤・迷い・戸惑い」が多くなっています。

どの項目も集計開始からまもないことと、分母が少ないこともあるので「参考値」となりますが、子どもの声が届いていることは確かです。そのなかで「高校生」と「女性」が多いこと、多くは「話を聴いてほしい」こと、「自分自身」の悩みを話す一方で、直接の関係では「実母」について話されていること、そして「つらい・苦しい」気持ちを抱えつつ「葛藤・迷い・戸惑い」も感じていることなどがわかります。

すでに「社会課題」として話題となっていることも踏まえつつ、今後の把握や集計・分析が必要なテーマです。

◆子どもたちの声 ※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

〈虐待〉

- ▶ 親が死んで、おじさん家で育った。そこのおばさんから性的なことをさせられていた。
- ▶ お母さんが最近イライラがすごい。ごはんが超テキトーで、ごはんとかふりかけとか…。妹が熱をだすと学校にいけない。以前、兄相に入っていた。それはもうイヤ。
- ▶ 小4まで親に虐待されていた。今は保護されて施設にいるが、そこも行動制限があつてつらい。
- ▶ 何か気に障ると、親に暴力をふるわれます。親は毎日夫婦喧嘩しています。もうどうすればいいんでしょうか。家に私の居場所なんてありません。
- ▶ 3人目のお父さんが、お酒を飲むと、髪を引っ張ったり、お風呂に入ってきて私の身体を触ってくる。もう死にたい。
- ▶ 休みにテレビみてたら、親に勉強しろって言われて喧嘩になって…。蹴られて家から追い出されて、鍵閉められた。

「ヤングケアラー」に関する件数一覧
(2021年度～2023年度9月まで 電話・チャット含む)

年度	件数	学年	件数	性別	件数	動機	件数
2021年	18	小学校高学年	9	男	26	話を聴いてほしい	65
2022年	27	中学生	18	女	53	答えが欲しい	10
2023年	35	中卒～18歳	51	不明	1	誰かとつながっていたい	4
合計	80	不明	2	合計	80	その他	1
		合計	80			合計	80

関係性	件数	気持ち	件数
自分自身のこと	28	つらい・苦しい	29
実母	22	葛藤・迷い・戸惑い	10
きょうだい	14	不安	8
実父	6	疲れ	8
友人・知人	1	困惑・困っている	6
養母	1	怒り・いらだち	3
祖母	1	イヤだ	3
その他	7	孤独・寂しさ	2
合計	80	その他項目	11
		合計	80

- ▶ 親と縁を切りたい。関わりたくない。私の人生なのに親に干渉されるのはウザイ。高校を決めるときも条件あり、好きなことも自由にできない。
- ▶ 父がキレれて、怒鳴られて、怖かった。今でも思い出すと涙が出る。何にも言い返せない自分が悔しい。言い返すと手を上げられそうなので我慢している。
- ▶ いい大学に行かせること、良い職業に就かせることに必死な親。親のならせたい職業につけると、殴られたり、胸ぐらをつかまれたり、蹴られたり…。休日も塾に行かされ、遊ぶ時間もない。

〈ヤングケアラー〉

- ▶ 母子家庭で母が朝から晩まで働いているから、家のことを全部している。
- ▶ 母が病気で家のことができなくて、私がやらなくちゃ行けなくて学校行けなかったけど、最近ヘルパーさんが来てくれるようになって行ける日が増えました。

《データ資料概要と注意点》

2023年7月～2023年9月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける“データベース”等を基に、集計しました。

- ・ 期間：《2023年度・第2四半期》2023年7月～2023年9月（速報値）
- ・ データ集計日：2023年11月6日

- ・ 集計数（分母）：

【トラフィックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	4月	5月	6月	3ヶ月計	7月	8月	9月	3ヶ月計
2022年度					43,027	39,539	37,287	119,853
2023年度	28,976	30,624	32,590	92,190	35,499	35,977	35,075	106,551

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

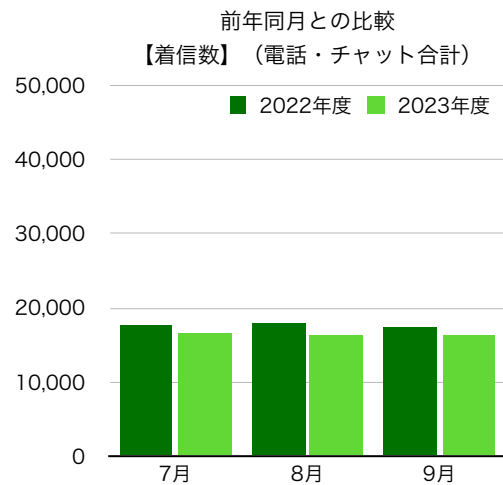
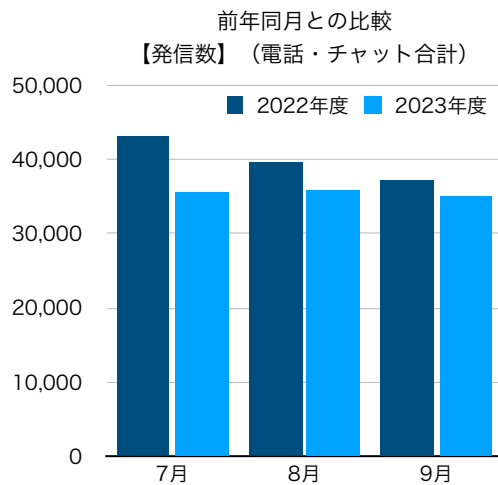
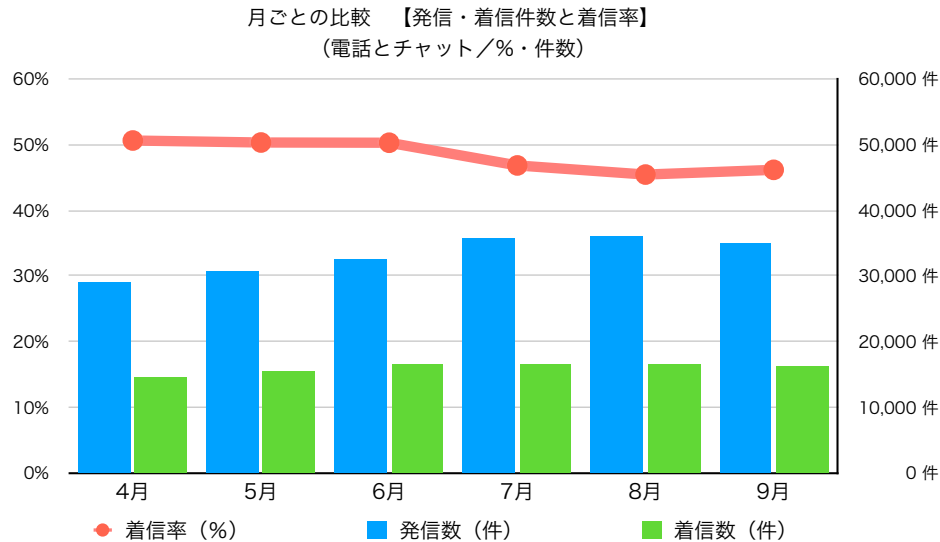
	7月	8月	9月	3ヶ月計
2022年度（全体）	15,182	15,937	15,011	46,130
2023年度（全体）	14,742	14,492	13,806	43,040
2022年度（会話成立）	4,477	4,450	4,401	13,328
2023年度（会話成立）	4,088	4,158	3,976	12,222

※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数 ※他資料とはデータが異なる場合がある。

- ・ 表記の定義：
「％」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
「ポイント」＝パーセントポイント（他の％をポイントとして比較）
- ・ データの種類：【トラフィックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積
- ・ データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある
- ・ データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合がある
- ・ 報道関係の皆様へ：この資料でのデータは速報値で、今後、集計結果が変わる可能性があります。
データ・資料について取材、ご利用、ご引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数（電話とチャット）は、この3ヶ月では、発信数・着信数ともに大きな変化はなかった。6ヶ月の推移を見てみると、着信率は、この3ヶ月は50%を切っている。前年同月との比較を見てみると、発信数・着信数ともに減少した。

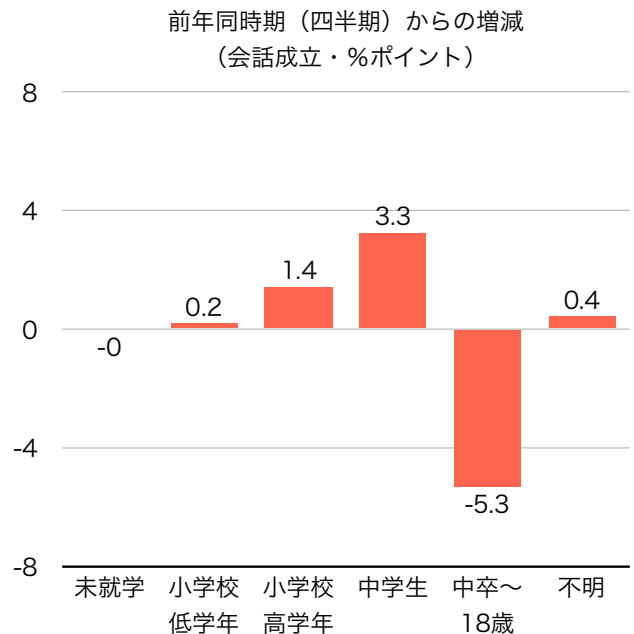
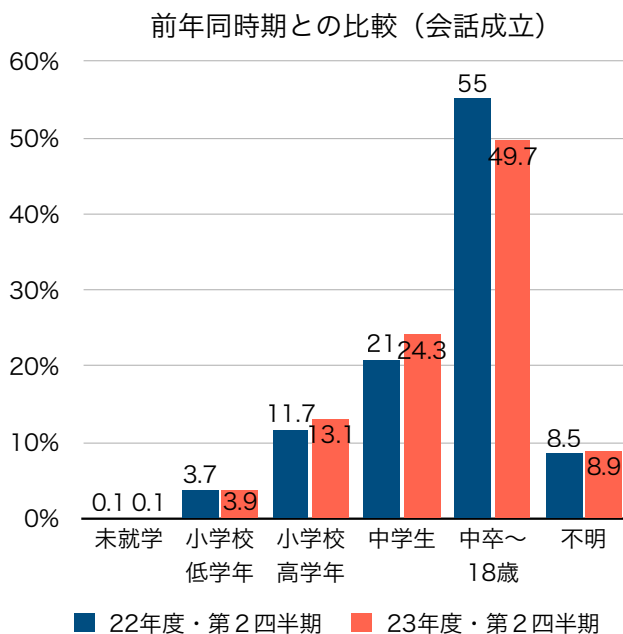
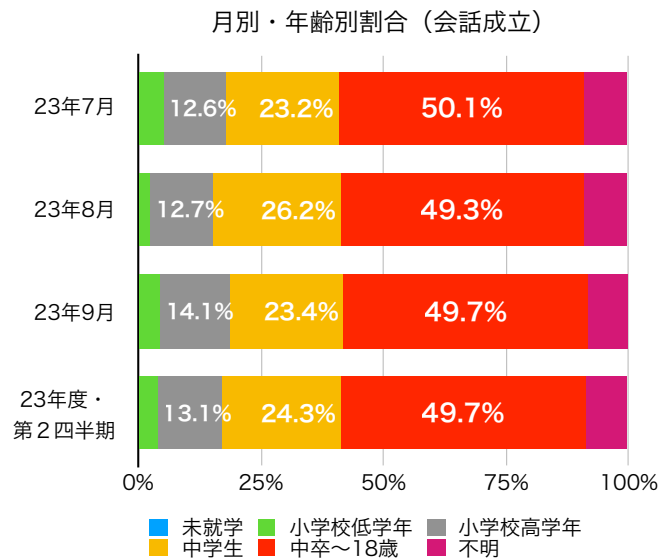


《データベース・年齢（会話成立）》

ここからはデータベースの「会話成立」（電話とチャット。以降のデータも同様）に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

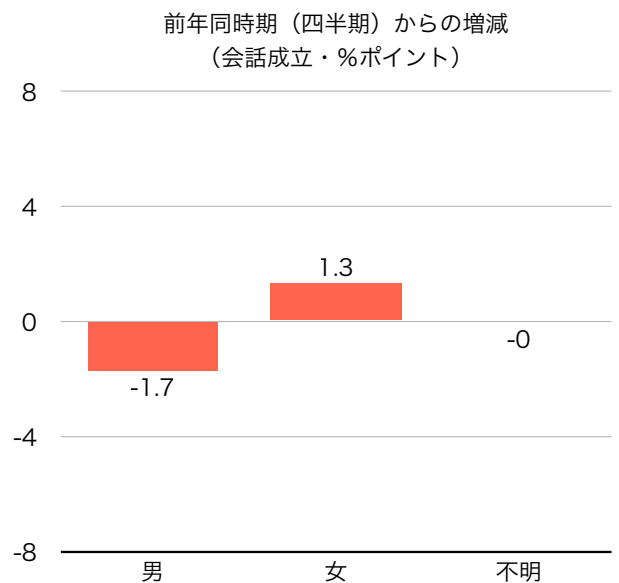
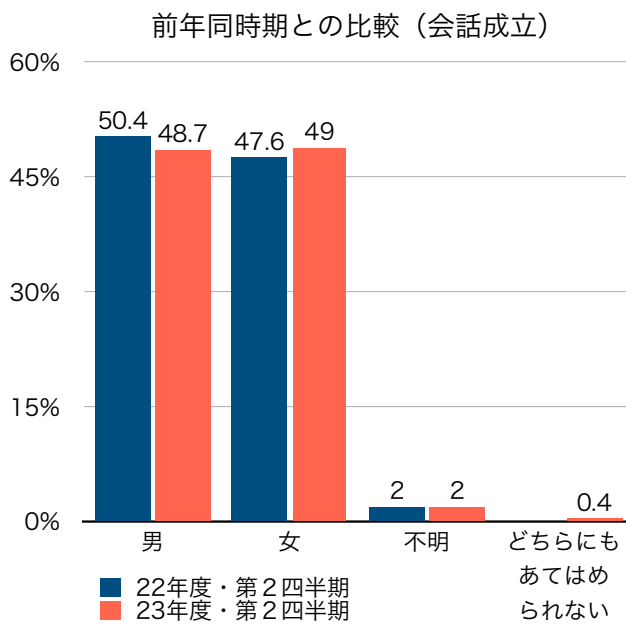
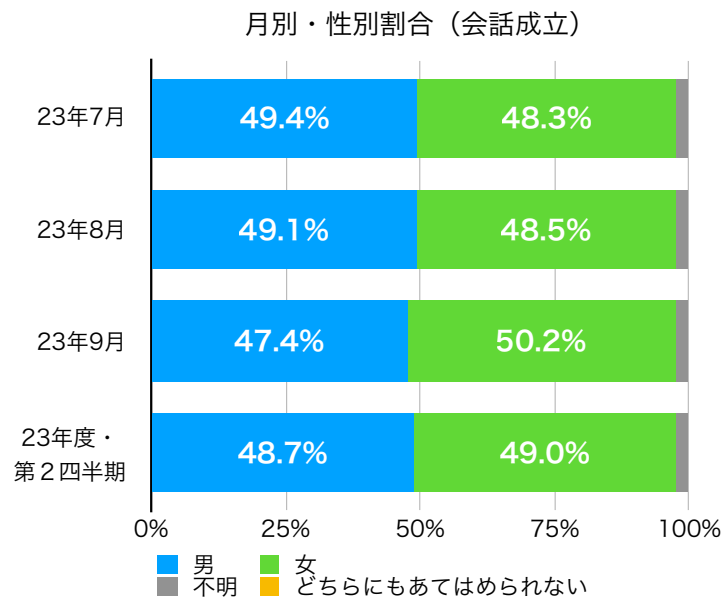
年齢の割合は、3ヶ月通じて高校年齢割合が多く（約5割程度）、月別割合は8月に中学生がやや多かった。

前年同時期からの増減は、高校年齢の割合が下がり、小学校高学年や中学生などが上がった。



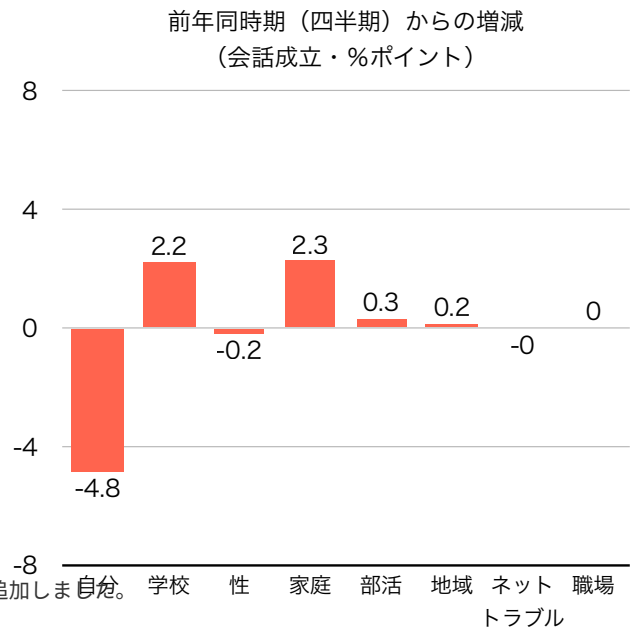
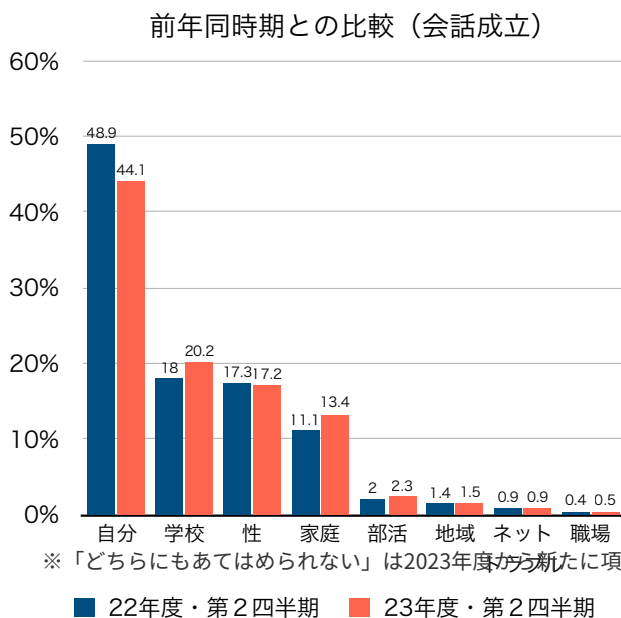
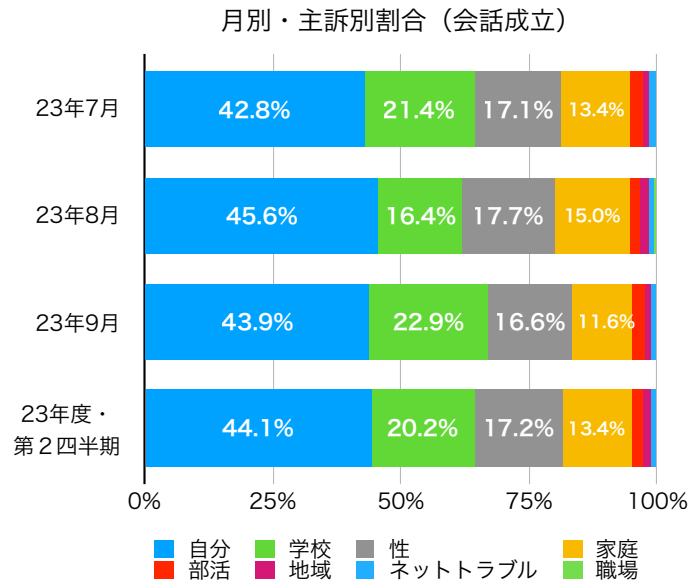
《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を集計した。男女ともに割合に大きな変化はない。前年同時期との比較では、男性が減少し、女性が増加した。



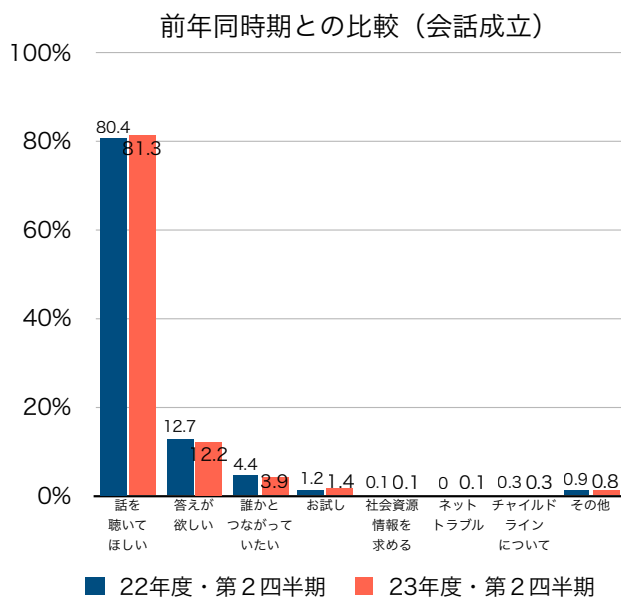
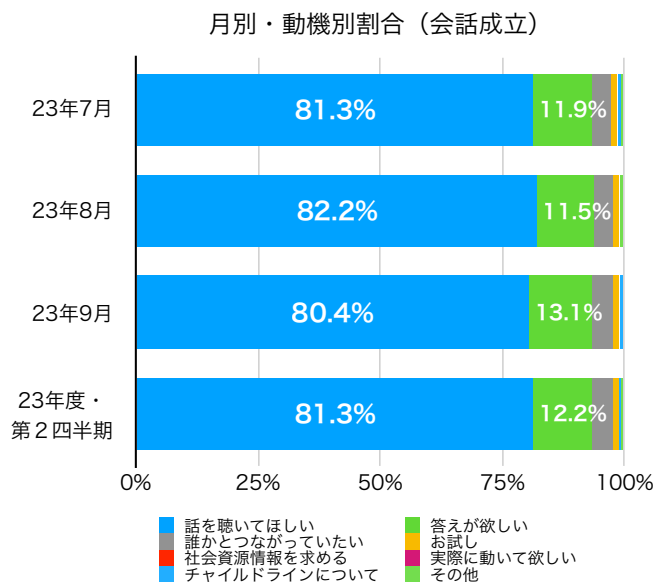
《データベース・主訴【大項目】（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴【大項目】」を集計した。8月は「学校」がやや減少し、「自分」が増加、9月は「家庭」が減少している傾向にあった。前年同時期との比較は、「学校」「家庭」が増加し、「自分」が大きく減少した。



《データベース・動機（会話成立）》

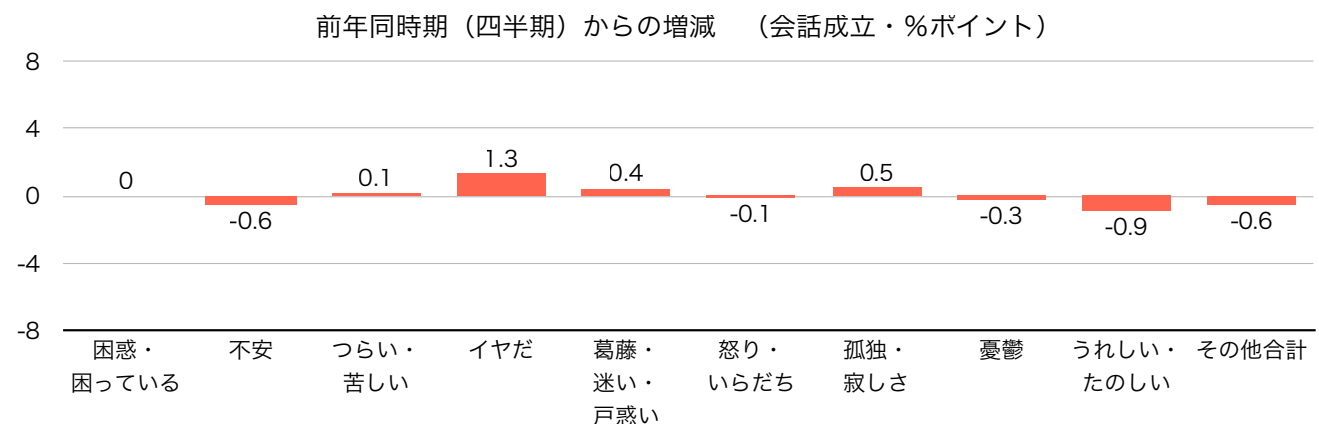
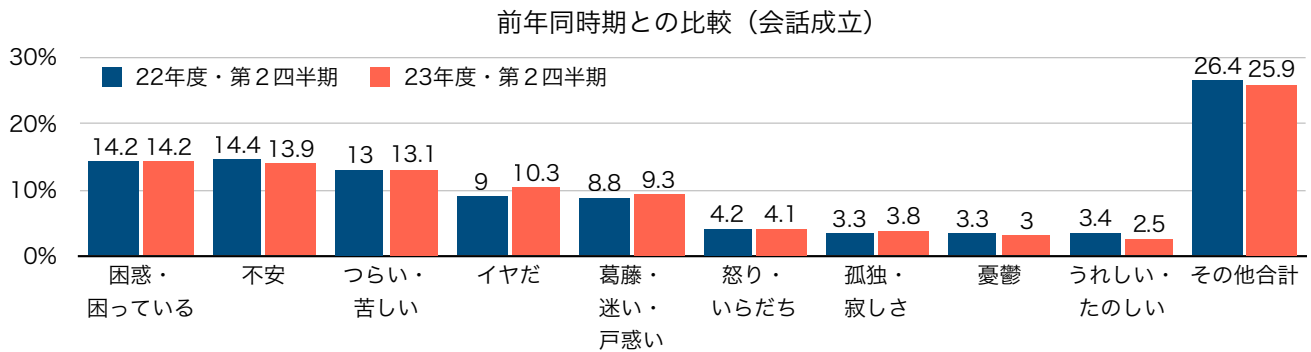
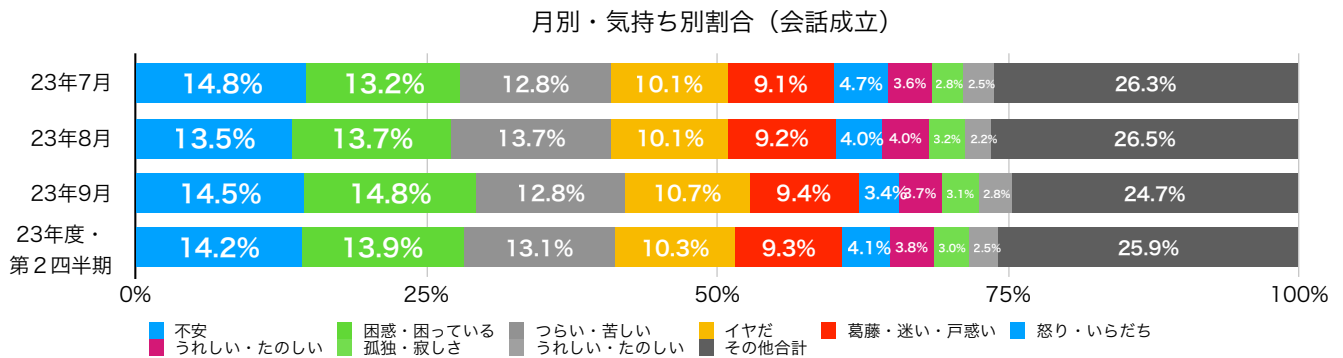
データベースの「会話成立」の中の「動機」を集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。前年同時期との比較は、大きな変化はなかった。



《データベース・気持ち（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を集計した。月別割合は多少の変化がある程度だった。前年同時期との比較においては、「イヤだ」がやや増加したが、それ以外の大きな変化はなかった。

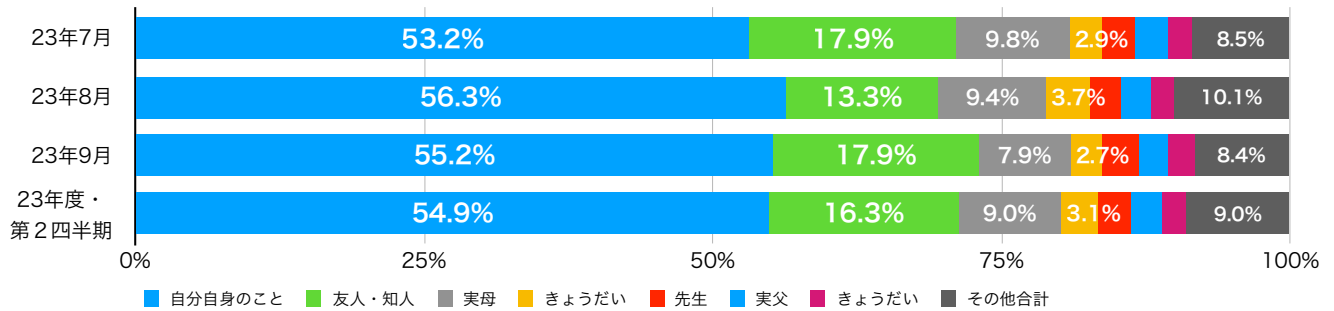
（※一部、項目において、割合が多い順ではない箇所があるが、前回グラフの割合順に統一して表記した）



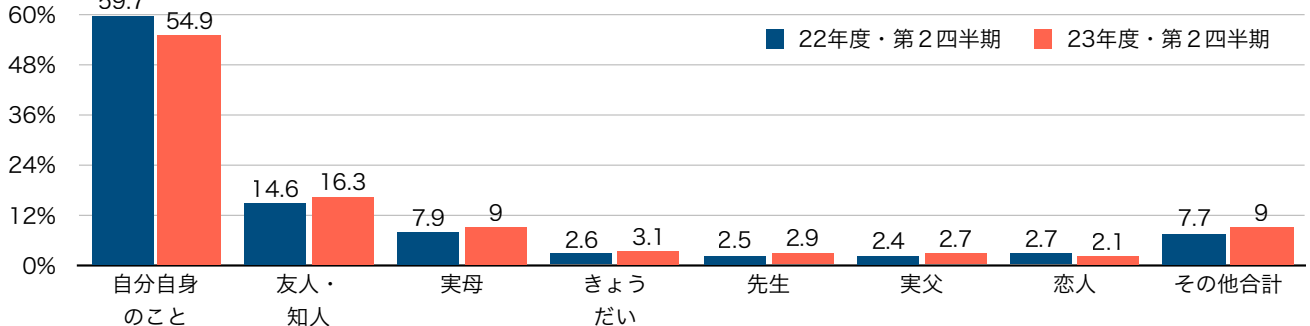
《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。月別では、8月に「自分自身」がやや増加し、「友人・知人」が減少。前年同時期との比較は「自分自身のこと」が減少し、「友人・知人」「実母」「その他合計」が少し増加した。

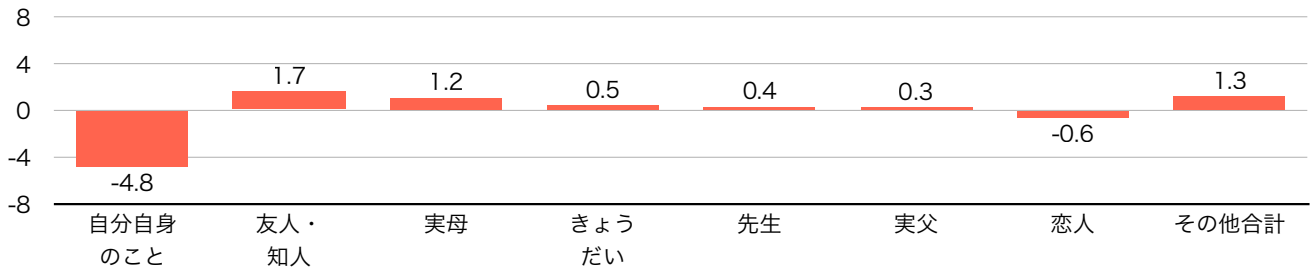
月別・関係性別割合（会話成立）



前年同時期との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

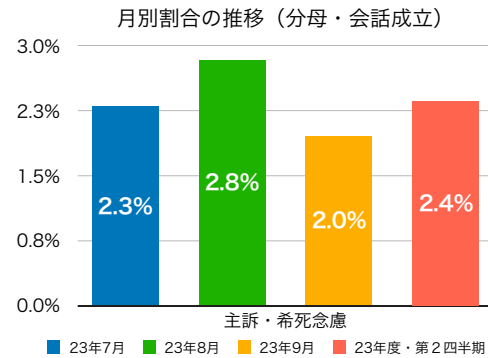


《データベース・「希死念慮を主訴とするもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮を主訴とするもの」を集計した。集計数が少ないので、参考値だが、8月に件数・割合共に増加している。月別割合の推移は、他のページと違い、グラフ数値を拡大している。

希死念慮を主訴とするものの件数

年月	件数
23年7月	94件
23年8月	118件
23年9月	78件
合計	290件

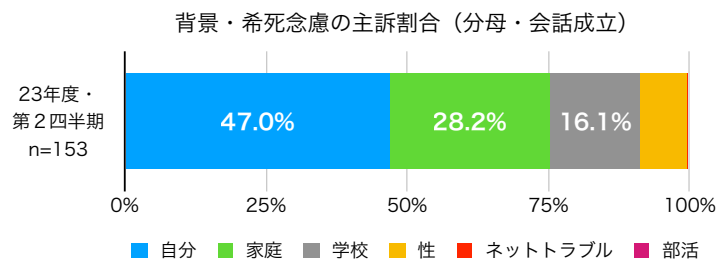


《データベース・「希死念慮が背景にあるもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮が背景にあるもの」を集計した。各月で僅かな変化はあるが、件数自体が少ないので誤差の範囲と考えられる。また、主訴の割合を見ると、自分、家庭、学校が多い。

背景に希死念慮がある件数

年月	件数
23年7月	46件
23年8月	57件
23年9月	50件
合計	153件



《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計したもの（属性などは自己申告・記入）。7月から9月につぶやかれた件数は、6,282件。さまざまな内容、性別、年齢の子どもから利用されていることが分かる。

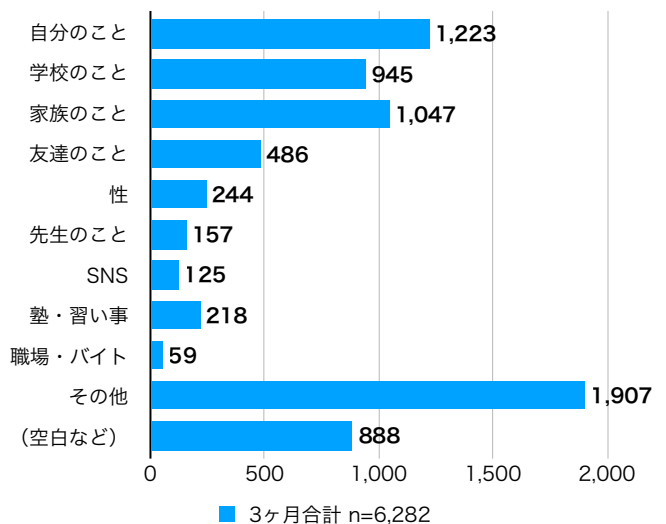
つぶやいた内容のジャンルは、順に「その他」「自分のこと」「家族のこと」「学校のこと」「友達のこと」となっている。性別は「女性」が圧倒的に多い。

また、年齢は、概ね10歳から13歳ぐらいまでが各9～18%と最も多い。

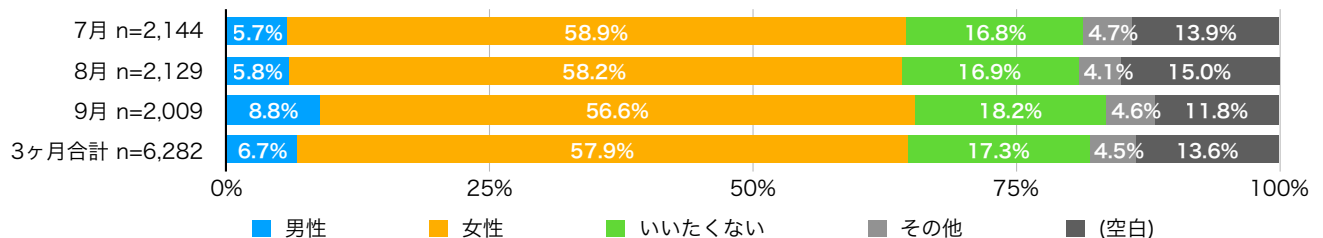
つぶやきに書き込みがあった総数

7月	8月	9月	合計
2,144件	2,129件	2,009件	6,282件

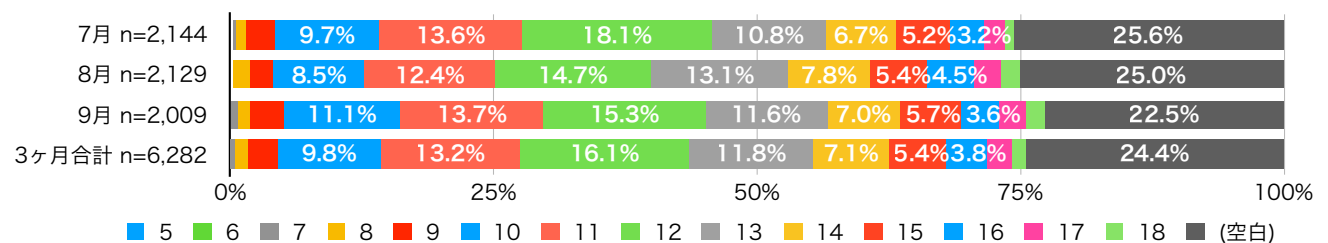
【つぶやく】テーマ別・複数選択



【つぶやく】月別・性別割合（全体）



【つぶやく】月別・年齢割合（全体）



【この資料に関する問い合わせ】

作成：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F
メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500
ウェブサイト：<https://childline.or.jp/>